

## 神奈川台場の歴史

近くの小学校に冊子寄贈

横浜

公益社団法人「神奈川台場地域活性化推進協会」(山本博土理事長)は1日、地元の歴史を知ってもらおうと、横浜市神奈川区の市立青木小学校(児童数768人)に、冊子「神奈川台場物語」1000冊を寄贈した。後明好美校長は「授業で教材として使いたい」と話している。

神奈川台場は、江戸幕府が1860年に横

浜の海岸部に造った砲台。青木小から約1キロの位置あった。横浜の防衛や、外国船に対して礼砲や祝砲を撃つ拠点で、西洋の軍備に許さなかった幕臣・勝海舟の設計で築造された。

現在は一帯が埋め立てられたが、一部で石垣が地表に出ている。

青木小が今年創立150周年を迎えるのに伴い、保護者や地域住民らと記念誌の製作を企画。地元の古い写真の提供を山本理事長に相談した。その際、児童が地域の歴史に関心を持つ良いきっかけになるとして、協会が冊子を寄贈することになった。

冊子はA4判32頁



山本博土理事長(左から2人目)から渡された「神奈川台場物語」を持つ早川さん(右端)＝横浜市神奈川区の市立青木小学校で

で、同財団が作成。古写真を多用し、古地図をカラー化するなどの工夫をして、神奈川台場以外の地域の歴史も説明している。

この日は、協会の4人が学校を訪れた。山本理事長は「学校の近くに神奈川台場がありました。この本を見ることでわかります。ぜひ街歩きに活用してほしい」とあいさつし、児童代表の6年生、早川瑠璃さん(11)に冊子を手渡した。早川さんは「私は歴史が好きなので早く見たい」と話した。青木小は児童全員のほか、教員や学校職員全員にも配布す

る。

【遠藤和行】